

2017年5月7日 (第178号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
あなた方は、二人の人を一度に完全に愛することはできません。でも、あなたがたが、みんなのうちにいらっしゃる、ひとりのイエスを愛するならば、みんなの人を一度に、完全に愛することができます。
でしよう。

社会と共に歩む教会に向けて



『社会と共に歩む教会として神のいつくしみをこの世に現すため、高松教区の進めべき将来への道を提示したい』。
諏訪榮治郎司教は4月9日(受難の主日) 付けて2017年度司教書簡を発表した。今年はいすくから30年目。日本の教会は『現代に生きる教会』としてあるべき姿を問いつつ歩み続けてきたと冒頭で語る。書簡の要旨を紹介する。

養成される教会

まず書簡は高松教区がこれから取り組む三つの大きな柱を提示する。一つ目が『福音書によって私たちが養成される教会になる』。
教会は『主のこぼれ』に養われ『キリストの教会』にならなければならない。『御ことば』が私たちの生活の基となり豊かなキリスト者の教会になる。

そして『御ことばを分かち合う』ことから福音のセンス(霊性)を持つ人(世の光・地の塩)へと養成され、その結果、意識(霊性)信仰感覚が日々新たにされる確かな教団組織が生まれ、教会は『キリストの体』となっていく。書簡は福音書による信徒の養成の大切さを強調する。

社会と共に歩む
二つ目の提示が『社会とともに歩む教会に向けて』。
社会が複雑になり人々は生きる困難さを感じている中で、教会は絶えず社会のニーズ(必要)に答えようと公會議を開くなど対応してきた。
教会はすべての人々に救いのメッセージを伝える使命を受けている。人々の喜びと希望、苦悩と不安とともに、特に貧しい人々、苦しんでいる人々とともに生きることを『現代世界憲章序文』でも述べられている。

諏訪榮治郎司教が17年度書簡

維持が精一杯という限界状況が見えてきている。
四国における教会のあり方を考える重要な時期であり、諏訪司教地区・ブロックの小教区のユニット化(組み合わせ)を通して教会活動の協力を考えたいと述べる。
小教区同士がユニットになり協力する形態(協力宣教を構築したり、小教区の合併によって人材的にも経済的にも『教会活動が骨太』になり、宣教の範囲も広がる。
それによってブロックの『メイン教会』の宣教力を強めて協力する態勢づくりを探りたいとする。
自分の教会(聖堂)だけにこだわらず、主において『交わりのあるところ』が教会であるという

⑤教会財政の健全化
15年度の司教訪問の時、教区の財政が大変厳しい状況であることを話した。義務的個人費出費に回したために、肝心の福音宣教、司牧、委員会活動費が大幅に縮小されるという遺憾な状況を報告せざるを得なかった。
16年度は以下の通り策定した。各小教区からの『納付金A』は本来の用途である福音宣教、教区運営、本部事務諸経費に充て、『納付金B』は司祭及び教区事務職員の人件費に充てる。
それによっても人件費は2500万円の不足により、教区民の皆様に『教区献金』(実績1200万円)2017年1月末日現在)をお願ひし、大阪教区管区4地区(500万円)や修道会(200万円)からの献金が充てられる。
人件費は16年度末時点で650万円の赤字だが、管区修道会、教区民の寛大な献金によってこの金額で済み、司教は心からの感謝を表明している。

⑥『高松教区の将来を考える会』(仮称)
教会が社会の中で意義のある存在となるためのかたちを策定せねばと司教は語る。
17年1月現在の高松教区は小教区26、働く聖職者25人、修道者60人、信徒4500人、外国籍信徒550人(推定)となっている。
教会は信者だけでなく社会の人々と共に歩み生きる意義を分かち合える存在が望まれる。新しいかたちの信徒養成、意義づくり、組織づくりが課題となっている。

⑦『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
福音を語りかける場がある。招かれた信徒、修道者、司祭らで『キリストの体』になる。それは『交わりと協力』という本質的な性格を持つ。
今は一人の司祭がオールマイティーに何でもこなす時代ではなくなった。『私たちキリストの体は協力し合うのです』と司教は述べた。
地区、ブロックにおいて小教区同士が互いに支え交わりを大切にする『協力宣教』活動が教区の将来構想の大前提だと書簡は強調する。

⑧『1100の家族』
カトリック
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

はばたき

ヨゼフ神父様、高山助祭様、叙階おめでとうございます。お二人は私たちに大きな喜びと希望をもたらしてくれました。
私たちは今、イエス様の復活という喜びの中を歩んでいます。復活されたイエス様は「兄弟たちにガリラヤに行くように告げなさい、そこでわたしに会うであろう」と言われます。
当時の弟子たちは希望を打ち砕かれて閉じこもっていました。復活を理解するためにガリラヤに帰り、原点に返って、イエス様に呼ばれた頃に戻る必要があったのでしよう。
私のガリラヤは、若いころ生きることに疲れ果てていた時、「疲れた者、重荷を負う者は、だれでも私のところに来なさい。休ませよう」という言葉と出会い、教会の門をくぐり、「休ませてください」と祈りました。
そこでイエス様と出会ったのは、信仰の恵みを受けた日です。その日は喜びにあふれて主の全てを委ね、主と共に生きて行こうと決心した新しい出発の日でした。
人それぞれのガリラヤがあります。初めの頃の愛、熱心さ、純粋な人生の探求心、そこに帰ることが復活だともいえるでしょう。ガリラヤで再びイエス様と出会った人はその喜びを人々に伝えるために生きて行くのです。

『救い』を伝え続ける教会へ
新しい宣教の在り方考えよう
高松教区には大学、高校、20もの幼稚園、病院の施設がある。大事な人生の道で

2017年度高松教区人事異動

地区・ブロックへの協力宣教チームへの任命、及び担当教会を示す。()は前任地。復活節・神のいつくしみの主日(4月23日)以降、該当司祭は一週間以内に異動する。

Table with 2 columns: Name and Position/Assignment. Includes names like Ismael Gonzalez, Nelson Williams, etc.

左記の通り、2017年度司祭人事異動を発令します。<敬称略>

- (注)
*1) モデラートルとは「ブロック責任者」を意味する (Cn543)
*2) 郡中教会は松山教会と合併し、聖堂は松山小教区の「郡中教会」(仮称)とする方向で検討していくことになる。松山教会と郡中教会は、移行のための実行委員会を設置し、今後検討を重ねていくことになる。
一方、高松教区責任役員会(2017年3月23日)は、郡中教会が松山教会と統合し、松山教会に所属しつつ、幼稚園と共に歩む新しい宣教の在り方を目指すことに賛同し、高松教区側からの協力として、現郡中教会土地(高松教区名義)を、ロザリオ管区聖ドミニコ修道会へ無償譲渡することを決議した。
こうして郡中共同体は、活動として幼稚園と共に歩む共同体を目指すことになる。この方向性が決まると、耐震性に問題を抱える現郡中教会聖堂は、ロザリオ管区聖ドミニコ修道会により改築され、法的にはロザリオ学園「天使幼稚園聖堂」となる。

ヨゼフ神父様、高山助祭様、叙階おめでとうございます。お二人は私たちに大きな喜びと希望をもたらしてくれました。
私たちは今、イエス様の復活という喜びの中を歩んでいます。復活されたイエス様は「兄弟たちにガリラヤに行くように告げなさい、そこでわたしに会うであろう」と言われます。
当時の弟子たちは希望を打ち砕かれて閉じこもっていました。復活を理解するためにガリラヤに帰り、原点に返って、イエス様に呼ばれた頃に戻る必要があったのでしよう。
私のガリラヤは、若いころ生きることに疲れ果てていた時、「疲れた者、重荷を負う者は、だれでも私のところに来なさい。休ませよう」という言葉と出会い、教会の門をくぐり、「休ませてください」と祈りました。
そこでイエス様と出会ったのは、信仰の恵みを受けた日です。その日は喜びにあふれて主の全てを委ね、主と共に生きて行こうと決心した新しい出発の日でした。
人それぞれのガリラヤがあります。初めの頃の愛、熱心さ、純粋な人生の探求心、そこに帰ることが復活だともいえるでしょう。ガリラヤで再びイエス様と出会った人はその喜びを人々に伝えるために生きて行くのです。

ヨセフ神父・高山助祭 叙階おめでとぅいざいます

3月20日、高松教区司教座聖堂桜町教会において、ヨセフ・ゴ・ヴァン・ティン神父とアシジのフランシスコ高山助祭の叙階式が行われました。教区内外から600人近くが、諏訪司教司式による厳粛な叙階式ミサに参列しました。



レセプションにて
教区からの記念品贈呈



聖堂を埋め尽くす参列者



カリスとパテナの授与



司祭叙階の祈り



叙階式直後、喜び一杯



奉献文



諏訪司教の授手



ヨセフ神父とご兄弟



叙階式後、司祭団・助祭と侍者

神なる主の力により

ヨセフ・ゴ・ヴァン・ティン神父

高松教区の皆さま、このたび、わたしの司祭叙階式にご参列下さって、沢山のお祈りと励ましをどうもありがとうございました。

皆様のお祈りと励ましのお陰で、3月20日高松教区のカテドラル教会において、無事に司祭叙階の恵みをいただき、またその翌日にはカテドラル教会で初ミサをする恵みをいただくことができました。

司祭叙階の恵みをいただいているから、数日がたちましたが、「ヨセフ神父」と呼ばれると、何か別の人が呼ばれているように感じ、ピンときません。

これまで20数年、志願者、神学生、また助祭の時期を過ごしてきたので、気持を切り替えるのに、まだしばらく時間がかかると思っています。

新司祭が生まれるということは、わたし自身の意志と努力、祈りはもちろんですが、何より神なる主の御意志によると言えるでしょう。ですから、「神がわたしに偉大なわざを行って下さいました」(ルカ1:49)。司祭は、特別の才能があるから司祭になれる

ということではないと思います。ただただ、本人の切なる願いを受けて、神なる主が司祭という特別の役目を、司教を通して本人に与えるのです。

今、新司祭として一番やりたいことは、ミサをはじめ、ゆるしの秘跡や病者の塗油などの秘跡を通して、多くの人々と主イエス・キリストとの出会いを助けることです。また多くの外国人のためにも司牧をしたいと思っています。

皆様方にはこれから司牧の中に、様々なこととお世話になったり、迷惑をかけることがあるかと思いますが、一日も早く、一人前の司祭になれるよう働きたいと思っています。

司祭になったばかりですが、分からないことが沢山あると思います。どうぞいろいろ教えていただければ幸いです。そしていつも温かくお見守ってくださいますようお願い申し上げます。





受階者の挨拶にて堅い握手



諸聖人の連願



助祭服の着衣



栄唱



諏訪司教の按手



福音書の授与



叙階式直後に



祭壇で受階者と諏訪司教



恩師シャル・エメ・ポルデュック神父と



祝賀会で「糸」を熱唱



家庭的な雰囲気の中で

アシジのフランシスコ 高山 徹助祭

お蔭様で、このたび助祭として叙階されました！心より感謝申し上げます。7年間ずっと、この教区の司祭候補として育てて頂き、この秘跡に与りました。一緒に(ケンカもしながら)歩んできたヨセフ新司祭と共に助祭叙階を受けることが出来たのも大きな喜びでした。教区内各地からご参列下さり、また多くの皆さんが忙しい中、叙階式の運営にご尽力下さり、誠にありがとうございます。教区外からの方も合わせますと、約600名の参列者数とお伺っております。叙階式の一週間前に、当初の予想を超える参列者数が推計され、驚きながらスタッフの皆様が準備して下さいました。

当日は、アットホームな雰囲気だったと多くの方が感じられたと伺っております。私の友達、家族、親族、恩人の皆さんも、そのように感じたようです。また私自身も、この家庭的な雰囲気の中で、力づけられ、また励まされた思いが致しました。司教様の前での種々の宣言は、少々緊張しながら力一杯お応え致しました。祝賀会も家庭的で、後半は徐々にお帰り頂く方もおられながら、最後まで良い雰囲気でした。

助祭叙階に与り、早速未洗者の親族や恩人、そして赤ちゃんに祝福をしました。嬉しく思いながらもとても緊張しました。まだ準秘跡や助祭奉仕をすることに恐れを頂きますが、引き続き神学校の助祭コース等を通して学び、喜んで奉仕の体験を積ませて頂こうと思っております。引き続きお祈り下さい。本当にありがとうございます！



TSC便り

被災者の苦しみ、道後教会で祈りと追悼ミサ

『被災者の苦しみ、悲しみをともに生きよう』—東日本大震災から6周年を機に道後教会で3月12日(日)、追悼ミサが行われた。

今回は熊本地震や豪雨などその他の大きな災害被災者のためにも祈ろうと「大ミサ」の後、参加者全員がローソクを燃やして気持ちを込めて追悼した。お年寄りも、子供も、家族連れも、揺らめく灯を見つめながら死者の追悼と被災者の無事を祈った。

最後に聖歌『いつくしみと愛』を全員で合唱して祈りのうちに閉会した。

被災者の苦しみ共に

道後教会で祈りと追悼ミサ

3月12日、坂出教会において東北地方と熊本地方の被災者のために「復興支援コンサート」が開催されました。今年は東北の被災者だけでなく、昨年、甚大な被害に見舞われた熊本の被災地の為にも、慰めを込めての開催となりましたが、通算6回目となりました。

第一部の「祈りとアゼ」が神父様と子どもたちによるキヤンドルサーブで静かに始まり、東北や熊本の方の手記が朗読されました。第一部での「忘れないでください」のメッセージに涙を流して、第二部のコンサートでは「忘れません」と、コーラスメンバーの熱い思いが歌い上げられました。今回は、4つのグループの参加があり、その中には、ベトナムの研修生のグループもありました。

教区スケジュール

- 5月
 - 3日(水) 憲法記念日 聖フィリポ 聖ヤコブ使徒
 - 4日(木) みどりの日
 - 5日(金) 子どもの日
 - 7日(日) 復活第4主日
 - 9日(火) 司祭評議会10:00
 - 14日(日) 復活第5主日
 - 20日(土) 宣教司牧評議会役員会13:00
 - 21日(日) 復活第6主日 ルルド祭in三本松 (霊性センター)
 - 26日(金) 聖フィリポ・ネリ司祭記念日
 - 28日(日) 主の昇天
 - 31日(水) 聖母の訪問
- 6月
 - 3日(土) 高松教区の将来を考える会13:30
 - 4日(日) 聖霊降臨の主日
 - 11日(日) 三位一体の主日
 - 17日(土) 宣教司牧評議会全体会
 - 18日(日) キリストの聖体
 - 19日(月) 高松・広島教区合同黙想会(～25日)
 - 23日(金) イエスのみ心
 - 24日(土) 洗礼者聖ヨハネの誕生
 - 25日(日) 年間第12主日
 - 29日(木) 聖ペテロと聖パウロ使徒「聖ペテロ使徒座献金」

慰霊の思い歌に込めて 坂出教会



いを寄せて歌って下さった「ふくむかひ」には、国を超えて祈りの灯が大きく灯されたと感じた時でした。皆様からの愛の献金は前回を大きく上回り、この会を

希望する葬儀のために 教区教会「終活」考える講演会

桜町教会では、生涯養成委員会と人権を考える委員会共催で「終活を考える」をテーマに3回シリーズでミニ講演会を開催しました。きつかけは障害者支援施設に入所していた信徒の方が、帰天後すぐに直葬(直接で遺体を火葬場に搬送し葬儀をする)されたことでした。

もし自分に何かあった時、自分の希望通りにしてくれたいのか、家族も自分の希望を知っているのかどうか、とても不安になります。ましてや一人暮らしで家族もいず、縁が切れたりしていたらどうでしょうか。でも書き



終活後援会で司会を務める筆者

葬儀とエンディングノートについては当日のレジュメが参考になります。また村上神父様のお話は神様の許可をいただいてCDに収録しました。レジュメ、CDが必要の方は、桜町教会事務局にお問い合わせください。

桜町教会
人権を考える委員会

TSC高松教区サポートセンター
東日本大震災大船渡支援
献金入金報告(含お米券)
(12月8日・4月20日分として)
9万705円
累計(4月20日現在)
1千707万1392円

司祭叙階記念 番町教会 金祝



宣教の道一筋に歩まれた

この度、番町教会の松永洋司神父様が司祭叙階50周年の金祝を迎えられます。おめでとうございませう。

松永神父様は、その温厚で優しいお人柄で、多くの方々を信頼され慕われています。

高松教区では本来、聖なる過ぎ越しの3日間の第一日目、聖木曜日に行われる聖香油ミサが4月12日、水曜日午前10時に司祭座聖堂において取り行われた。

先日、信徒皆でお祝いをしていただきました。松永神父様は1942年3月、長崎県平戸市粗差町に生まれ、1967年7月、番町教会 杉本憲俊

司祭座聖堂での聖香油ミサ

司祭叙階50周年を迎える番町教会担当司祭、松永洋司神父のお祝いも行われ、ミサ終了後司教館に場所を移し、教区内で働く司祭団と共にその喜びを分かち合った。

司教は司祭団と共同司式のミサを行い、その中で司祭団は司祭の前で「司祭の約束」を更新し、また司教による聖油の祝別が行なわれ、洗礼志願者用聖油、病者用聖油、そして堅信などに用いる聖香油の、3種の聖油が祝別されました。



ミサの中で感謝の辞を述べる松永師

松永神父様の金祝も喜びに 聖香油ミサ

高松教区では本来、聖なる過ぎ越しの3日間の第一日目、聖木曜日に行われる聖香油ミサが4月12日、水曜日午前10時に司祭座聖堂において取り行われた。

司教は司祭団と共同司式のミサを行い、その中で司祭団は司祭の前で「司祭の約束」を更新し、また司教による聖油の祝別が行なわれ、洗礼志願者用聖油、病者用聖油、そして堅信などに用いる聖香油の、3種の聖油が祝別されました。

新刊書籍紹介

いのちへのまなざし 【増補新版】

「21世紀への司教団メッセージ」として2001年に発行された『いのちへのまなざし』に大幅な改訂を加え、第二章以降を全面的に書き改めた「増補新版」。

混迷を続ける現代社会の中で「時のしるし」を見極め、いのちの尊厳といのちのさまざまなつながりを深く尊重するよう変わることなく訴えていく、新たな司教団メッセージ。著者日本カトリック司教団判型B6 168頁 本体価格 500円(税込540円)

〈道後教会〉

◆キリスト教を学びたい方のために「キリスト教入門講座」を開いています。日程は受講者の都合の良い時間に出るだけ応じます。お気軽にご相談ください。

毎月2回(1回1時間)

場所 道後教会

講師 道後教会担当司祭及び信徒

対象 洗礼を受けていない方

◆ミサ時間◆

- 日曜日 午前10時
- 金曜日 午前10時
- (都合により中止もあり)

◆いのちの日◆

- 毎月第3水曜日午後5時
- 健康体操とおしゃべり
- 年齢・性別不問、予約・会費不要。
- ◆どなたでもお気軽にご参加ください。

神を観想し、その実りを人々に伝えよ

聖ドミニコ宣教修道女会

鳴門聖母幼稚園 高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園 海の星幼稚園

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう

暁の星学園

鳴門聖母幼稚園 高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園 海の星幼稚園

編集後記

主のご復活おめでとうございませう。

この喜びとは裏腹に、日本の周りが何か大きな臭くなってきた感じがします。

教皇様は世界各地で軍事紛争や衝突が起る度に当事国には勿論、世界各国に向けて、融和と平和の尊厳と実現を訴えかけておられます。

祈りだけではどうにもならないような現実にも、主の復活の力が及びますようにと希望をもって、なお一層の祈りが求められているのでしよう。